

54 A 312.2
53 B 510

特 許 庁

実 用 新 案 公 報

実用新案出願公告

昭31-19213

公告 昭 31.12.8 出願 昭 29.12.11 実願 昭 29-44147

考 案 者 山 本 健 一
出 願 人 車 邦 工 業 株 式 会 社
代理人 弁理士 原 田 秀広島市舟入川口町715ブロック
住宅17号

広島県安芸郡府中町宇新地6047

(全2頁)

Vベルト伝動装置に於けるVベルト冷却装置

図 面 の 略 解

第1図は本案の縦断側面図、第2図は一部を縦断した正面図である。

実用新案の性質、作用及効果の要領

本案は駆動軸1上のV潤滑2と、被動軸3上のV潤滑4とを、Vベルト5を以て伝動するようにしたVベルト伝動装置に於て、之等V潤滑及Vベルトを吸気口6及排気口7を設けた包篋8を以て包囲し、且上記V潤滑2に適當の翼片9を設けて成るものである。

従来特に車船用Vベルト伝動装置に於ては、V潤滑及Vベルトに塵埃等が甚しく附着するだけでなく、之を巻き込んで機能を害し或は危険を伴う虞もあつたものであるが、本案のように之等V潤滑及Vベルトを包篋8を以て包囲するときは、こ

の欠点を完全に省除することができるものであつて、この場合包篋内に発生する熱は、V潤滑の回転に伴い翼片9を以て排気口7より包篋外に排出し、吸気口6より冷気を包篋内に吸入するため、Vベルトは絶えず冷却されて発熱によるVベルトの耐久性の低下を来さしめるようなことのないものである。

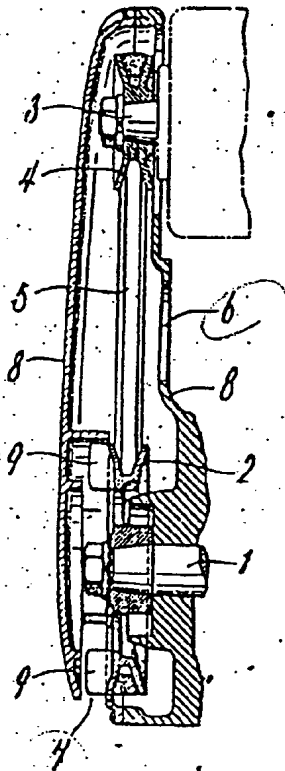
登 録 請 求 の 範 囲

図面に示すように駆動軸1上のV潤滑2と、被動軸3上のV潤滑4とを、Vベルト5を以て伝動するようにしたVベルト伝動装置に於て、之等V潤滑及Vベルトを吸気口6及排気口7を設けた包篋8を以て包囲し、且上記V潤滑2に適當の翼片9を設けて成るVベルト冷却装置の構造。

(2)

實用新案出願公告
昭31-19213

第1圖



第2圖

